

平成30年度 事業報告書

指定特定施設入所者生活介護事業所 大慈吉祥園

1. <基本方針>

法人の基本方針である「和顔愛語」「上敬下愛」に基づき、ゲストが施設の中で人間として尊厳を保ち、健やかで快適かつ生きがいのある生活が営めるように努める。また、措置施設として地域社会における役割を果たせるように努める。

2. <平成30年度重点目標> ※吉祥園準ずる

①介護サービスの質とゲストの満足度を高める

吉祥園②に準ずる

② 介護サービスの調整・管理と給付管理

ケアマネジャーがチーム会議に参加し現状を把握し、直接業務中に確認する機会を持ち、モニタリングを行い、適切であるかの管理をしていた。サービス提供記録も例文や個別に指導し、表現も少しずつ改善されつつあり、記録漏れに関しては少なくなっている。記録の苦手な職員は後回しにしており、三日間の申し送りに記載し出勤時に直接指導はするが、なかなか改善できていないのが課題である。

3. <職員体制>

管理者 1 名	介護支援専門員 1 名 (相談員兼務)	支援員 5.5 名
	相談員 1 名 (吉祥園主任相談員兼務)	

4. <要介護度状況>

平成31年3月31日現在

項目	女	男	計
その他 (非該当)	3	3	6
要支援1	2	1	3
要支援2	6	1	7
要介護1	22	5	27
要介護2	13	2	15
要介護3	3	1	4
要介護4	5	1	6
要介護5	1	0	2
合計	55	14	69
平均要介護度	1.9		

5. <総括>

介護力向上にあたっては、排泄・食事・生活リハビリ係で力を入れてゲスト個々に合った対応を検討し、その都度状態に合わせて対応を変えることを図った反面、自分のやり方を通す職員もおり統一が難しかった。情報の共有に関しては、日々の復唱の中に緊急時の対応 (ケース台帳の見方) の訓練を取り入れたり、サービス記録の仕方の研修や自己チェ

ックシートでの振り返りを行い知識を深めたが、共有の漏れなどもあり次年度の課題も残った。サービス提供記録においては、日々サービス提供責任者のリーダーとケアマネジャーでダブルチェックをすることで漏れを減らすことが出来ている。